

服飾史・服飾美学部会

部会長 横川 公子

当部会は、1991年の発足から18年、2009年度には19年目を迎える。最近は10周年企画を受け、20周年企画として当該分野の「関連論文要旨集」第2巻刊行に向けて取り組み中であり、成果が問われる年月を重ねたといえよう。

この間、服飾史・服飾美学領域の多岐に亘る調査研究情報を集約して発信し、基本的な研究方法や研究事例報告による会員のための勉強会および研究成果を公開する研究会を企画・実施するなど、この領域全般の研究活性の推進を目指してきた。但し当領域の調査研究は、文化学一般に言えることではあるが、精緻な資料踏査やフィールド調査・実物資料の情報化にもとづく浩瀚な知識を掘りどころとするなど、長期にわたる研究の継続が求められる。また実用の学としての衣服研究の流れのなかで、当領域への関心が格段に増加するということにもならず、設立当初と同様、日本家政学会においては少数派に属することに変わりはない。部会創設当初の正会員60名が、やがて100名前後に増加し、ほぼその規模で推移してきた。が最近では、若い研究者の増加は緩慢であり、一方、会員の高齢化に伴って、会員数は減少の傾向にある。

しかし部会発足当初に較べると、グローバル化といってもよい領域の拡大と研究視座の広がりが認められる。社会学や文化人類学のような領域における服装への注目は増加しているようである。服装史・服飾美学研究においても、日本と西洋を中心とした、しかもそれ自体、美術品である服飾や文芸・芸術作品の中の服飾への関心から、世界の広範な地域の民族・民俗服飾、日常の服装から舞台衣裳、あるいはジェンダーの視点からの探求やファッション動向の社会調査など、関心の広がりが見られる。

以下では、当部会の取り組みの枠組みにしたがって、成果の一端を概括しておきたい。

1. 部会の事業

当部会の目的遂行のために、次のような事業計画を実施している。

- ① 年次総会の開催
- ② 各種研究会の開催
- ③ 部会報の発行

④ 関連論文情報の収集と同要旨集の発行

⑤ 共同研究の推進

⑥ 日本家政学会大会への企画参加

2. 部会の運営

部会は、会員の互選により選出された委員によって運営されている。部会長1名、副部会長2名、会計2名、企画・編集などの事業担当委員10名余り、庶務、幹事が適宜任命されているほか、監査2名をお願いしている。部会長は、初代菅原珠子氏（学習院女子短大）、2代相川佳子氏（奈良女子大学）、3代鷹司綾子氏（和洋女子大学）、4代増田美子氏（学習院女子大学）が選任され、現在は5代横川公子（武庫川女子大学）が引き継いでいる。

3. 事業の内容

(1) 総会の開催

毎年、家政学会大会または部会研究会に日時を合せ、開催している。事業報告・事業計画、予算・決算、監査の報告をすると同時に、会員からの希望や提案を受け、部会運営の意見交換をしている。

(2) 研究会の開催

「服飾史研究における資料検討法」および「服飾史研究のための事例報告」の2つを継続テーマとして部会の内外に講師を求め、年2回の研究会を実施している。このほか、当分野の卒業生の活躍を紹介する「実践現場の経験と提言」を2回、さらに「国際交流をファッションから考える」というテーマで、研究成果公開研究会を4回、2年にわたって実施した。ここでは継続テーマと公開研究会について紹介しておきたい。

まず継続テーマについて、1998年以降2007年度までの題目と講師陣を実施順に紹介する。

【服飾史における資料検討法（12件）】

- ・小人島の話—明治期インソップ物語の翻訳
米井力也氏（大阪外国語大学）
- ・物と文献・物と絵画資料からのアプローチ
小笠原小枝氏（日本女子大学）
- ・英国におけるライフスタイル史研究—資料と方法—
草光俊雄氏（東京大学大学院）
- ・法隆寺と正倉院の染織幡にみられる技法と文様の変遷
沢田むつ代氏（東京国立博物館）

- ・瀬戸内の物産 塩・イモと木綿—その歴史的基盤の研究— 藤井 昭氏 (広島女学院大学名誉教授)
 - ・資料としてみたイタリア十六世紀の挿図入り活版本 末永 航氏 (広島女学院大学)
 - ・児童文学における再話研究の可能性—〈フランダースの犬〉を中心に— 佐藤宗子氏 (千葉大学)
 - ・江戸の美意識—小袖の美— 長崎 巖氏 (共立女子大学)
 - ・服飾文化研究における資料の問題 井上雅人氏 (京都精華大学)
 - ・女性性の近代史 井上章一氏 (国際日本文化研究センター)
 - ・公爵鍋島家の服飾遺品調査—鹿鳴館時代— 石井とめ子氏 (大妻女子大学名誉教授)
 - ・明治以降の尾西地方の織物—絹綿交織から毛織への展開を中心に— 鈴木貴詞氏 (郷土史研究家)
 - 【服飾史研究のための事例報告 (14 件)】
 - ・近代庶民の衣生活を探る 桜井理恵氏 (一宮女子短期大学)
 - ・服飾調査と文化史研究 岡松 恵氏
 - ・16 世紀西洋服飾史のために 伊藤亜紀氏 (お茶の水女子大学)
 - ・友禅の美—造形的試行— 森口邦彦氏 (染織作家)
 - ・中国の旗袍の発展について—清代～現代— 王 曉華氏 (武庫川女子大学)
 - ・韓国における緋 曹 圭和氏 (梨花女子大学)
 - ・琉球における緋 富士栄登美子氏 (琉球大学)
 - ・和服模様における西洋モダンデザインの影響 原田純子氏 (神戸文化短期大学)
 - ・日本の白と黒 増田美子氏 (学習院女子大学)
 - ・ヨーロッパにおける黒 イングリッド・ロシエック氏 (独フォルツハイム大学)
 - ・アメリカンキルトについて 伊藤紀之氏 (共立女子大学)
 - ・図像解釈の変化：隣接分野が服飾史に期待するもの 大島幸治氏 (評論家・短大講師など)
 - ・武井武雄の〈着衣の動物〉 鈴木すゝ江氏 (青山学院短期大学)
 - ・歌舞伎衣裳と世相 森田登代子氏 (桃山学院大学 (非))
 - ・文楽人形衣装の種類と特色 清水久美子氏 (同志社女子大学)
 - 【研究成果公開研究会—国際交流をファッションから考える—】
 - 第 1 回 現代ファッションを探る
 - ・生活者から探る一つのブランド論 鍛島靖子氏 (実践女子大学)
 - ・ジーンズ・カジュアル・ファッション 宇野保子氏 (中国短期大学)
 - ・ストリートファッション—アンチモードの展開— 村田仁代氏 (大阪樟蔭女子大学)
 - 第 2 回 西欧化への道筋
 - ・女学生スタイルの形成—袴を通して— 横川公子氏 (武庫川女子大学)
 - ・男装の和装化における洋装化—インバネスとセルの導入から 先川直子氏 (目白大学短大部)
 - ・大正・昭和—ハイカラからモダンへ— 鈴木すゝ江氏 (青山学院短期大学)
 - 第 3 回 大航海時代の南蛮文化と服飾
 - ・陣羽織の赤を探る 齊藤昌子氏 (共立女子大学)
 - ・信長、謙信の脚衣からみえてくるもの 河島一恵氏 (共立女子大学)
 - ・16 世紀西洋の実物遺品と南蛮服飾との類似点—近年のドイツ語圏での研究を手がかりに— 黒川祐子氏
 - 第 4 回 古代から中世
 - ・アジアの中の日本—葬礼の装いから見た日本人— 増田美子氏 (学習院女子大学)
 - ・モードと博物学—中世ヨーロッパの異国趣味— 徳井淑子氏 (お茶の水女子大学)
 - ・モードのナショナリズム—16 世紀イタリア人の自負— 伊藤亜紀氏 (国際基督教大学)
- (3) 部会報の発行
年 2 回 (7 月と 12 月) の部会報を発行し、平成 20 年末までで、通刊 32 号を発行している。
- (4) 関連情報の収集と出版事業
関連学会誌掲載論文を毎年 2 回の部会報に継続して掲載している。その総集編に大学紀要投稿論文・総説・短報・その他の情報を加えて各報文の要旨を作成し、『服飾史・服飾美学関連論文要旨集 1950～1998』(建帛社, 2001 年) を発刊。現在さらに、20 周年事業として『服飾史・服飾美学関連論文要旨集 1999～2008』(建帛社, 2009 年予定) を発刊するべく準備を整えており、さらに「要旨集」2 冊を視野に入れたデータベースを構築していく予定であり、この件について科学研究費を申請中である。

学会活動の回顧と展望

(5) 共同研究

日本学術振興会科学研究費採択課題として部会員による共同研究が企画され、平成16～18年度には2件

の研究課題が取り組まれた。

以上のほか、記念講演やシンポジウムなどを実施してきたが、余白の関係で省略する。

食 品 組 織 部 会

部会長 峯木 真知子

1. 食品組織部会設立とその歩み

本部会は、昭和55年4月に日本家政学会の研究委員会として設立し、平成14年以後は部会として活動している。この母体は、東北大学農学部の市川収先生、次いで星野忠彦先生に食品組織学研究の指導を受けた松本エミ子先生を始めとする熱心な方々により、昭和47年に発足している。ここでは、平成10年度から20年度の10年間の歩みをまとめる。

委員長は、昭和55年度から平成6年度まで元共立女子大学松本エミ子先生が担当され、その後平成7、8年度は大妻女子大学下村道子先生、平成9-12年度は元広島大学田村咲江先生、それ以降は東京医療保健大学峯木真知子が引き継いでいる。平成13年11月日本家政学会理事会に部会への申請を行い、平成14年1月12日に部会設置が承認され、現在まで活動を続けている。

事務局は東京医療保健大学医療栄養学科においている（西念幸江氏、生方恵梨子氏）。会員数は全国に渡り約60名で、大学の教員の方々が多かったが、現在では食品関連企業の研究者も多くなっている。

2. 委員会・部会活動の経過

(1) 総 会

総会は研究発表会・講演会開催期日に合わせて、事業報告および事業計画、会計決算報告および収支予算を決定し、規約改正、役員改選などを行っている。

平成15年における総会では、日立サイエンスシステムズの和田正夫氏に対し、感謝状を贈っている。

役員会は日本家政学会本次大会中に行っていたが（平成12年・14年）、日本家政学会役員をかねている方が多いこともあり、開催困難の実情である。

(2) 研究発表会ならびに講演会

各年度の開催日、会場、題目、演者を以下に記す。

平成10年9月25日 関西日立科学機器センター

講演：顕微鏡を用いた研究の進め方 大隈正子氏
研究発表

① 梅漬け組織の電顕観察 小竹佐知子氏

② 清酒麴の電顕観察 吉井美華氏

③ 食品タンパクゲルの物性と構造 太田尚子氏

平成11年9月25日 東北大学農学部

講演：光学顕微鏡標本作製の基本 鈴木 惇氏
研究発表

① 笹かまぼこの組織と染色性 佐藤靖子氏

② かぶら寿しの物性と組織構造 守田律子氏

③ 畜肉加工品における分離大豆蛋白 芦田祐子氏

平成12年9月22日 関西日立科学機器センター

講演：顕微鏡像の画像処理法 馬場則男氏
研究発表

① イカ筋肉の組織構造 安藤真美氏

② 茶葉の組織学的観察 庄司善哉氏

③ 卵の貯蔵と加熱における微細構造 峯木真知子氏
平成13年9月18日 日製産業関西支店

講演：食品の組織とテクスチャー 山野善正氏
研究発表

① 調理操作と構造 星川恵理氏

② 米飯のほぐれの可視化 芦田祐子氏

③ 魚肉の軟化機構の解明 安藤正史氏

④ スポンジケーキ・パンの気孔構造 藤井淑子氏
平成14年9月25日 日立ハイテクノロジーズ関西支店

研究発表

① 肉のおいしさと組織構造 渡邊康一氏

② 魚肉および魚肉ゲルの組織構造 吉岡慶子氏

③ 野菜・ゲル状食品の微細構造 淵上倫子氏

平成15年9月24日 日立ハイテクノロジーズ関西支店カスタムセンター

講演：組織学研究の勧め 小林正彦氏
研究発表

① 無機イオンの存在する飯の組織構造 稲垣明子氏

② 植物食品の組織構造解析 石本太郎氏

③ プリンの嗜好と構造 棚橋伸子氏

④ ゴマ豆腐の構造観察 佐藤恵美子氏

平成16年9月21日 日立ハイテクノロジーズ関西支